



教育実習始まる

初めて教壇に立つ時、準備は必要です。経験がないため、自分の中学・高校時代の授業を模倣しがちですが、学習指導要領が改訂により、どのように変化したのか、再度確認してください。

「問題を考える・解く」のは生徒です。「なぜ・どうしてそのように考えるのか」の【問い】を順序立てて考える方法（思考）を導くのが先生です。教科書の配列、問題の配列、言語（ことばや用語）には意味があります。奇をてらう必要はありません。教科の便利さ・面白さ・理系的思考を楽しく伝えてください。



授業では、その教科で育成する力が学習指導要領で定められています。

では、現行の学習指導要領の改訂では、各教科で育成を目指す資質・能力の要素が **4つから3つに変更**されています。どう変わったのでしょうか。

採用試験 面接

- ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断 ③ 表現・技能 ④ 知識・理解の4要素から
 - ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ **主体的に学習に取り組む態度**の3要素に変更されました。
- では、**③ 主体的に学習に取り組む態度**は、どのような学習によりどのように評価するのでしょうか。

特集



本特集の解説の
所報解説動画

「主体的に学習に取り組む態度」の評価



過去の所報
「たまじむ」

「学びに向かう力、人間性等」には、「感性、思いやりなど」の観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分と「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分があります。本特集では、「主体的に学習に取り組む態度」の「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面について、子供の具体的な姿や評価場面等の具体例を紹介いたします。



粘り強い取組を行おうとする側面

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた姿

例

- 見通しをもって計画を立て、解決しようとする姿
- 課題解決のために継続して取り組もうとする姿
- 積極的に考えを広げたり、整理したりしようとする姿

自らの学習を調整しようとする側面

粘り強い取組を行う中で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する姿

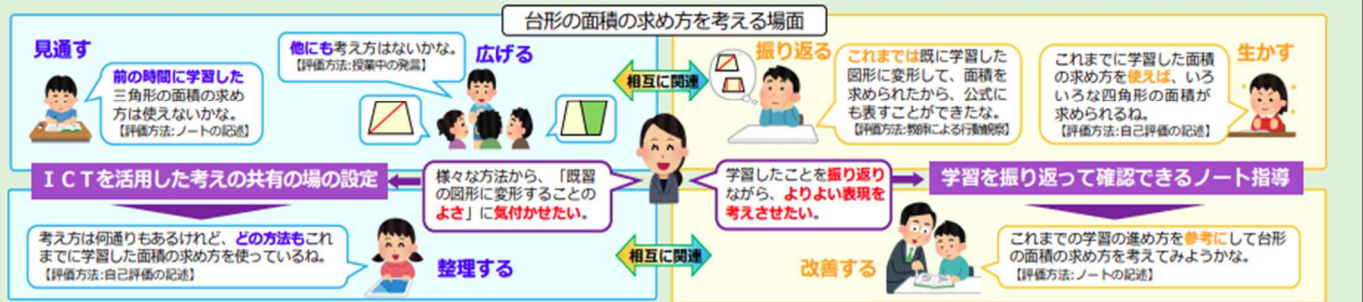
例

- 学習を振り返り、学習の進め方を改善しようとする姿
- 学んだことを参考に学習や生活に生かそうとする姿
- 試しながら、表現の仕方を工夫しようとする姿

評価場面や評価方法等の具体例

小学校算数 第5学年 単元名「四角形と三角形の面積」

単元の目標【学びに向かう力、人間性等】 求積可能な図形に帰着して考えること**のよさに気づき**、既習の求積方法や式表現を**振り返り**、簡潔かつ的確な表現に**高めよう**とする。



参考文献 ○ 学習評価の在りかハンドブック（小・中学校編）（令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所） ○ 新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について（令和2年10月 文部科学省 初等中等教育局教育課程課）
○ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所） ○ 子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して<短期編><長期編>（令和2年9月 東京教育委員会）

KEY WORD は「調整力」



2030年次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会 教育課程部会では令和7年12月15日の教育課程部会で、次のような資料が配布され検討されています。すでに実験校では実施されています。「調整力」「自己決定型学習」という言葉で、検索するとインターネットで実践例が見つかります。

3. 自己調整学習の事例

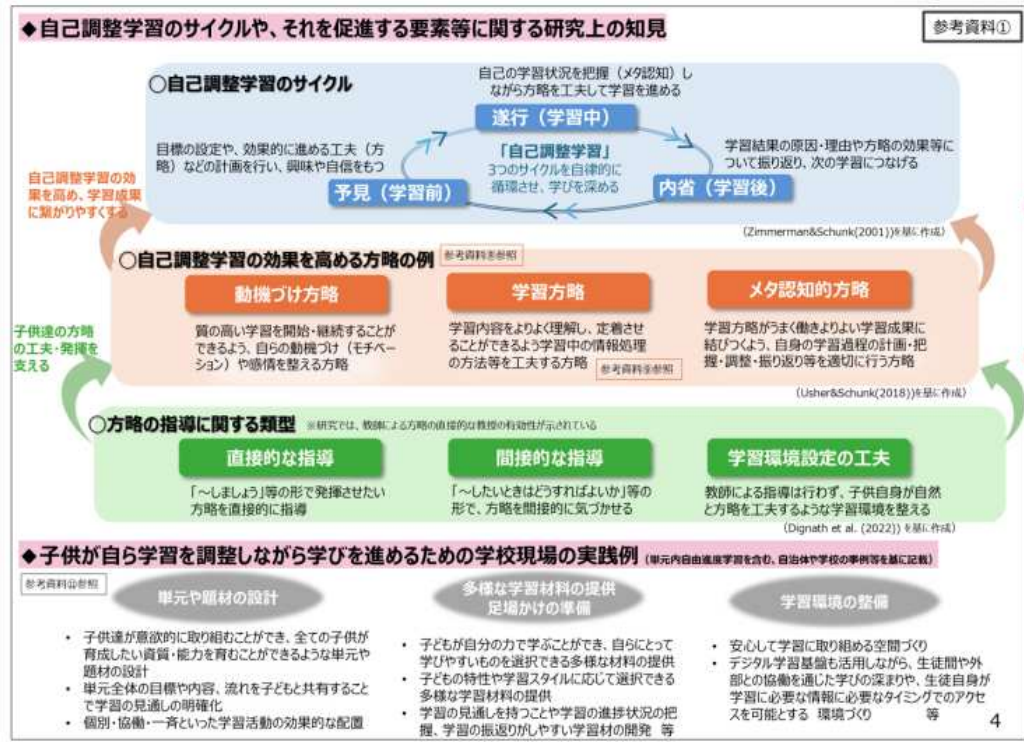
(1) 自分らしく学ぶために：学習のやり方、進め方（学習方略）への注目

学習のやり方（学習方略）の重要性：“どう学ぶか”“どう理解するか”

- 子どものやる気を基盤に～動機づけ方略
- 勉強のやり方を工夫する～認知的方略
- 自分のやり方を客観的に考える～メタ認知方略 ※参考資料p. 12

方略を教授することの効果	
教授した方略の種類	効果量
メタ認知的方略	0.70
認知的方略	0.37
メタ認知的方略と認知的方略	0.78
動機づけ方略	0.94
メタ認知的方略と動機づけ方略	1.13
認知的方略と動機づけ方略	0.69

(Dignath et al., 2008 をもとに作成)



参考資料① 岡田, 2023 より

ここで、注意しなければならないのは、下から緑⇒オレンジ⇒青と段階を踏んで自己調整学習が行われるということです。大学生の皆さんはすでに、青の段階でゼミや授業を進めていると思います。しかし、対象となるのは生徒です。単元の目標・テーマ・評価、そして「問い」の立て方を教え、支援する必要があります。学習をすべて生徒に任せるわけではなのです。実際に学習の中で決定できている割合は必ずしも高くはないことが予測されています。そのため、教員の単元設計、方略等の指導や多様な動機付けなどの準備などの指導力や力量が重要とされます。その点を踏まえた、「調整力」を育成する教科の取組を受験時まで考えていきましょう。

また、次期学習指導要領では、授業時間の革命的変更が計画されています。
 小学校：45分授業 → 40分授業へ短縮／中学校：50分授業 → 45分授業へ短縮とし、短縮された5分間は「調整授業時数」として、**探究的な学習活動の拡充**、個別最適な学習支援、教員の研修・準備時間に活用されます。

現行の指導要領では、「探究的な学び」「言語化」「ICTの活用」が注視されています。
 あなたはどのように考えますか。



横浜市 2026 年度採用試験小論文⇐
 「探究的な学び」の中で、特に「問いを立てる」ことは難しいとされます。生徒たちが主体的に問いを立てて学びを深めていくためには、どのような取組や工夫が必要でしょうか。あなたの考えを述べなさい。⇐